



東北商店株式会社
www.tohokushoten.com

被覆線・雑品
非鉄金属買収

貿易業

東北商店株式会社
□本社
大阪市住之江区新北島5-3-16
TEL:06-6683-8828
□南港事業所
TEL:06-6613-8838
□千葉支店
TEL:0436-76-7277
□名古屋支店
TEL:0567-94-5688

グループ会社

東北エント株式会社
兵庫県姫路市網干区浜田1585
TEL:079-271-5025
www.tohoku-ent.com

日刊メタルレポート

発行所
株式会社 日刊金属新聞社
本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表
北陸支社 富山市曙町1-30-508号内
電話 (076) 444-6836
購読料 半年44,100円(前納) 3ヵ月22,050円

軽圧品の生産量〇・三%減

アルミ新地金が三二・八%増

橋本金属橋本健一郎氏リポート②

【概況】八月前半はECBが欧州高債務国の国債買い入れや米FRBの追加的金融緩和(QE3)期待で上昇する場面もあったが、中国鉱工業生産が九・二%増と予測の九・七%増を、小売売上高が一三・三%増と予測の一三・一%増を下回った事を嫌気し、LMEアルミ相場が下落、一、八一〇ドルと五〇ドル下落しての前半締めとなった。

後半は中国不動産価格の上昇に伴う金融緩和期待の後退や不動産規制引締め観測など、マイナスマテリアルから一、八〇〇ドルを切る場面もあったが、中国温家宝首相および当局高官が利下げに関してコメントした事やHSBCのPMI指数(消費者物価)が四七・一と景気過熱感となる五〇を下回った事による金融緩和期待から反発した。

九月一日現在、LME(現物後場)一、八五〇ドルとほぼ下落分を取り戻し九ドル下落のスタートとなった。

■前月の経済指標

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前月比三・三%増の九二万二、六八五台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前月比二九・二%減の二三万二、三七二台(前年比七・三%増)。(面へ続く)

今年上半年銅生産六・四%減

目標下回る―チリ・コデルコ

産銅世界最大手のチリ銅公団(コデルコ)はこの程、今年上半年期の同社の銅生産量は七六万七、〇〇〇トンと、前年同期比六・四%減少し、同社の目標数量を下回っていることを明らかにした。ただ、今年の年間生産目標である約一七〇万トンは変更しないとしている。

コデルコは、生産減少は、鉱石グレードが低下したほか、岩盤が硬く、鉱床も深かったことが理由だと説明。特にチュキカマタ、サルバドール、ラドミロミック鉱山で生産が減少したという。ただ、ギャビー、エルテニエンテおよびアンディナ鉱山では生産が拡大しているため、生産減少は限定的だと話した。

同社は、今年の銅生産量を一七〇万八、〇〇〇トンと予想。年間二〇〇万トン超までの増産に向けて、野心的な投資計画を実行している。

(二面より続く)

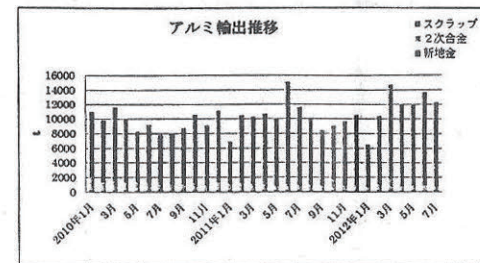
◆新設住宅着工戸数

国土交通省によると、新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)四%増(昨年比九・六%減)の七万五、四二二戸であった。

◆貿易関連指標

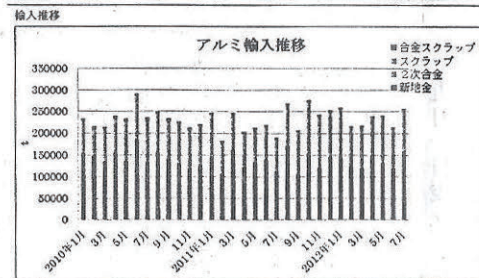
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前月比四一・四%増の一六四t、二次合金が二四・六%減の六三三t、スクラップが九・五%減の一五一、五二四t。

	5月	6月	7月
輸出			
新地金	146 t	116 t	164 t
前月比	+74%	-20.5%	+41.4%
二次合金	716 t	837 t	631 t
前月比	+9%	+16.9%	-24.6%
スクラップ	10087 t	12736 t	11524 t
前月比	-2.7%	+26.5%	-9.5%
輸出推移			



輸入は新地金が前月比三二・八%増の一五万九、二九三t、二次合金が四・一%増の九万四、七六三t、スクラップが二七・八%減の四九六t、合金スクラップは四・九%減の二、六九〇t。

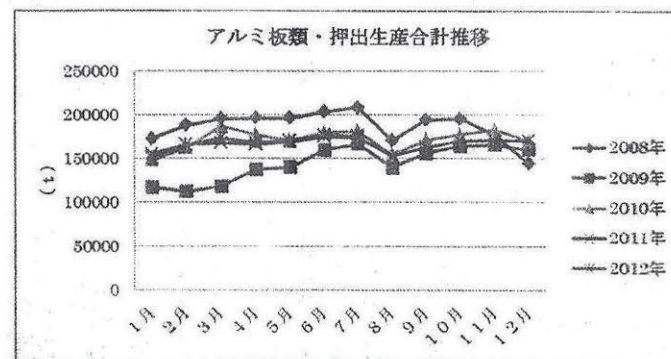
	5月	6月	7月
輸入			
新地金	13万1889 t	11万9908 t	15万9293 t
前月比	-10.9%	-9.1%	+32.8%
二次合金	10万5156 t	9万1000 t	9万4763 t
前月比	+20.3%	-13.5%	+4.1%
スクラップ	711 t	687 t	496 t
前月比	+4.6%	-3.4%	-27.8%
合金スクラップ	3678 t	2828 t	2690 t
前月比	-2%	-23.1%	-4.9%
輸入推移			



【前月の国内指標】

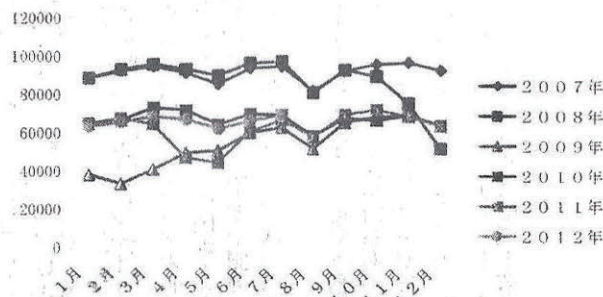
日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前

月比〇・三%減の一七万五、九六三t(昨年対比一・三%増)。



日本アルミニウム協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前月比四・九%増の七万〇、四三二tであった(昨年対比四・一%増)。(六面に続く)

アルミ2次合金等生産実績



今後の自動車の動向を注視の必要

LMEアルミ、上値では伸び悩みも

(二面より続く)

【見通し】

絶対好調であった自動車関連で今回復売台数がついに伸び悩み、また住宅関連も伸び悩み、軽圧品は安定しているものの家電関係の悪化が足を引っ張る形となった。

欧州懸念は独メルケル首相がユーロ防衛に意欲を示した事やECBの国債購入再開期待から現状は安定。

自動車生産は前年比一六・七%増の九二万二、六八五台と一二月連続上昇し、堅調に推移。

ただ国内自動車販売台数が二二万二、二七二台で前年比七・三%増と伸び悩んだ(前月比二九・二%減)。

自動車関連のアルミ二次合金生産は昨年対比四・一%増と五カ月連続上昇、今後は販売台数の減少による生産調整が考えられる。

その他、住宅・家電需要が見込める圧延・押出品生産数は前月比〇・三%減の一七万五九六三t。昨年対比一・三%増と自動車・住宅に支えられ小幅増加。

新設住宅着工数は季節調整前月比四%増の七万五、四二一戸、前年比は九・六%減と大幅減少、ただし住宅エコポイント切れ前の駆け込み需要の反動か。

輸入塊は上海シグマなどのハイグレード物で八月末現在 最高値二、二〇〇ドル(プラス二〇)、ロシア塊は一、九〇〇ドル(プラス五〇)。

輸入は新地金が前月比三二・八%増の一五万九、二九三t、自動車関連の二次合金は四・一%増の九万四、七六三t、スクラップは二七・八%減の四九六t、合金スクラップは四・九%減の二、六九〇t。

輸出は新地金が前月比四一・四%増の一六四t、二次合金が二四・六%減の六三二t、スクラップが九・五%減の一五一、五二四t。

アルミ原料需給に関して震災の復興需要も一段落、新設住宅着工数も住宅エコポイントの反動ではあるが前年比九・六%減とこちらも一段落。

最大の需要家である自動車メーカーの自動車販売が二九・二%減(前月比)、七・三%増(前年比)とついに伸び悩み、二次合金生産も四・九%増(前月比)と今後も販売減少にと

る伸び悩みが考えられる

以上から今月も引き続き二次合金メーカーは販売台数の伸び悩みや先行き不安(欧州問題)を背景に購買意欲はあまりない。

前月に続きLME価格については弱含み横ばい。

独メルケル首相のユーロ救済関する積極発言や中国の景気対策期待が出る一方で、米、欧州の経済指標好転から追加の量的金融緩和(QE3)が行われる可能性が今は低い事などから上値は一、九〇〇ドル。

ただ下値も前月に続き最悪の場合は米、中の金融緩和の期待(あくまで期待)が下支えし限定的で一、八〇〇ドルが下値。

スクラップ価格については八月後半価格から据え置き五円安の予測。

年率換算で一・一%増へ

四〇六月期GDP改定値 民間予測

四〇六月期の国内総生産(GDP)改定値に関する主要民間シンクタンク一社の予測が三日、出そろった。平均値は、物価変動の影響を除いた実質で前期比〇・三%増、年率換算一・一%増で、速報値(前期比〇・三%増、年率一・四%増)から小幅の下方修正となる見込みだ。内閣府は十日に改定値を公表する。

財務省が三日発表した法人企業統計で、四〇六月期のソフトウエアを除く全産業の設備投資(季節調整済み)は前期比〇・五%減と、2四半期連続で縮小した。これを踏まえ全社が改定値で設備投資の伸び率が下方修正されると想定。伸び率は平均で〇・八%増(速報値は一・五%増)に半減した。一方、公共投資は改定値で上方修正されるとの見方が多い。

一方、物価変動を反映した名目成長率の予測は、前期比〇・二%減、年率〇・八%減(速報値は前期比〇・一%減、年率〇・六%減)となった。

先行きについては、輸出の弱さやエコカー補助金終了後の新車販売の落ち込みなどを主因に、「景気の減速傾向が強まり、日本経済の『踊り場』入りは避けられない」(BNPパリバ証券)と厳しい予測が目立つ。